

斑点米カメムシ類

1 形態と生態

斑点米の原因となるカメムシ類は、埼玉県内で53種が確認されていますが、河川流域の水田地帯では、アカヒゲホソミドリカスミカメ、山間山沿い地帯ではクモヘリカメムシが主に多発しています。

(1) アカヒゲホソミドリカスミカメ

成虫は体長5～6mm、幅1mm。幼虫は成虫に比べやや平たいが同様な色・形をしている。イネ科植物において卵で越冬すると推定され、主にスズメノカタビラやイタリアンライグラスなどのイネ科植物で増殖します。幼虫は年3回発生します。雑草地では5月頃から成虫が確認されます。

(2) クモヘリカメムシ

成虫は体長15～17mm、幅2mm。カメムシ特有の臭いがします。成虫で越冬し、春の活動開始後は、イネ科植物などで増殖します。幼虫は8月頃から年1回発生します。



写真1 アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫
細長く緑色、ヒゲ(触角)が長く赤い



写真2 クモヘリカメムシ成虫
緑色で細長く、翅鞘は黄褐色で光沢がある

2 被害の様子

穂を加害し、斑点米を発生させるため玄米の品質が低下します。被害がひどい場合には、不稔やくず米となり減収を招きます。アカヒゲホソミドリカスミカメなど小型の種は、乳熟期に成虫による加害が集中し、クモヘリカメムシなど大型の種では、黄熟期まで成虫及び幼虫が長く加害すると考えられます。玄米にできる斑点の現れ方は、カメムシの種類や加害時のイネの登熟段階で変化しますが、斑点の中心部にカメムシが刺したあとの小褐点が認められます。



写真3 アカヒゲホソミドリカスミカメによる斑点米
玄米の頂部に斑点が多い



写真4 クモヘリカメムシ多発圃場
不稔となり傾穂しない



写真5 クモヘリカメムシによる斑点米
多発時には不稔粒が増加する

3 発生について

(1) 発生条件

ア 斑点米カメムシ類は、主に、河川敷の堤防や牧草地、休耕田や畦畔のイネ科植物で越冬・増殖し、イネが出穂し始めると成虫が水田に移動します。このため、栽培地域の中でも、出穂期が早いイネで、生息場所に近い水田ほど被害を受けやすくなります。斑点米の発生率は出穂期～登熟前期の加害で高くなります。

イ 高温・少雨の年は発生が多くなります。

(2) 発生消長

両カメムシとも、水田への侵入は主にイネの出穂期以降です。

イネの茎葉は硬く、カメムシは吸汁できないため、出穂期前の水田には侵入しないと考えられます。

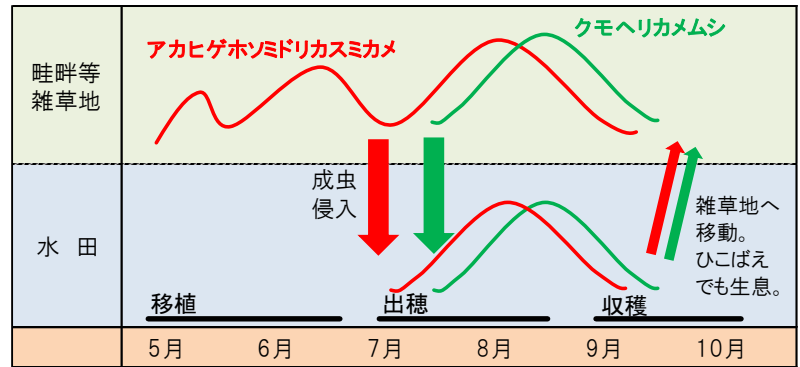


図1 斑点米カメムシ類の発生消長

4 防除時期と防除方法

斑点米の被害を軽減し、減農薬栽培を進めるためには、水田近隣の雑草地の管理が重要なポイントです。

実施時期 (イネのステージ)	防除方法	留意事項等
冬期 移植後 ～ 出穂2週間前	■耕種的防除 水田周辺の畦畔、休耕田等の雑草除去を数回行います。 畦畔のグランドカバープランツの植栽も効果があります。 (センチピードグラス、アジュカ、シバザクラなど)	生息密度の抑制に効果があります。 出穂期前後の除草は斑点米カメムシ類の水田への移動を助長するため、出穂2週間前以降は行わないようにします。 また、水田に隣接する堤防や道路等のイネ科雑草の除去時期についても、管理する機関と調整を図ることが大切です。
出穂期 ～ 乳熟期	■薬剤防除 下記の目安を参考に防除要否を判断します。	薬剤散布後7～10日のすくい取り調査で、再飛来が確認される場合には2回散布が必要です。広域的な一斉散布が効果的です。 薬剤は、収穫前日数などを考慮して選択します。

(注)防除の目安

防除要否の判断に当たっては、径36cmの捕虫網を用いて出穂期の水田中央部を20回すくい取りを行い、生息数を調査します。または、フェロモントラップを設置し誘殺数を調査します。

(1) アカヒゲホソミドリカスミカメ

出穂期に、すくい取りで成虫が5頭以上捕獲される場合は、防除が必要です。

出穂期～出穂期5日後のフェロモントラップ総誘殺数が20頭以下の場合は、薬剤防除が不要です(新潟県農業総合研究所 成果:品種はコシヒカリ)。

(2) クモヘリカメムシ

アカヒゲホソミドリカスミカメに比べ、大型で加害時期も長いので、畦畔等イネ科雑草で多発し、水田内で捕獲される場合には防除が必要です。

薬剤防除を実施する場合は、

- 最終有効年月内の農薬を使用し、ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を必ず確認してください。
- 適切な薬剤を選択し、病害虫が抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- 農薬を散布する際は飛散しないよう対策を講じてください。

- 発行 平成28年2月 埼玉県農産物安全課、一般社団法人埼玉県植物防疫協会
- 問合せ先(原稿執筆)

埼玉県病害虫防除所 TEL048-539-0661

埼玉県農業技術研究センター生産環境・安全管理研究担当 TEL048-536-0409



©埼玉県 2005

彩の国埼玉県